

# 4 月月例労働経済報告のポイント

## 一般経済

○ 景気は、持ち直していたが、東日本大震災の影響により、このところ弱い動きとなっている。また、失業率が高水準にあるなど依然として厳しい状況にある。

- ・ 輸出は、持ち直しの動きがみられたものの、東日本大震災の影響による減少が懸念される。生産は、持ち直していたものの、東日本大震災の影響により、このところ生産活動が低下している。
- ・ 企業収益は、改善しているが、東日本大震災の影響が懸念される。設備投資は、持ち直している。
- ・ 企業の業況判断は、慎重さがみられる。
- ・ 雇用情勢は、依然として厳しいものの、持ち直しの動きがみられる。ただし、東日本大震災の影響が懸念される。
- ・ 個人消費は、持ち直しの動きがみられたものの、東日本大震災の影響により、このところ弱い動きもみられる。
- ・ 物価の動向を総合してみると、緩やかなデフレ状況にある。

○ 先行きについては、当面は東日本大震災の影響から弱い動きが続くと見込まれる。その後、生産活動が回復していくのに伴い、海外経済の改善や各種の政策効果などを背景に、景気が持ち直していくことが期待されるが、電力供給の制約やサプライチェーン立て直しの遅れ、原油価格上昇の影響等により、景気が下振れするリスクが存在する。また、デフレの影響や、雇用情勢の悪化懸念が依然残っていることにも注意が必要である。

## 労働経済

○ 労働経済面をみると、雇用情勢は、依然として厳しいものの、持ち直しの動きがみられる。ただし、東日本大震災の影響が懸念される。

- ・ 2月の完全失業率（季節調整値）は4.6%で、2か月ぶりに前月差で低下（0.3ポイント低下）。
- ・ 就業者数（季節調整値）は6,294万人で、3か月連続で前月差で増加（25万人増）。
- ・ 雇用者数（季節調整値）は5,517万人で、3か月連続で前月差で増加（26万人増）。
- ・ 有効求人倍率（季節調整値）は、0.62倍（前月差0.01ポイント上昇）。
- ・ 新規求人倍率（季節調整値）は、0.99倍（前月差0.03ポイント低下）。
- ・ 現金給与総額（原数値・速報）は264,773円で、前年同月比0.3%増。